

滋賀県立琵琶湖博物館協議会

令和5年度第1回会議

日 時 令和5年（2023年）8月3日（木）

14時00分～16時15分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

会 議 次 第

1 開 会

2 報告事項

水族展示室の水槽破損事故について

3 議 題

（1）滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく

令和4年度事業についての内部評価について

（2）その他

4 閉 会

1 開 会

○司会：それでは、定刻を若干過ぎておるんですけれども、ただいまから滋賀県立琵琶湖博物館協議会令和5年度第1回会議を開催させていただきます。

まず、開会に当たりまして、館長の高橋よりご挨拶申し上げます。

○館長：失礼いたします。皆様、本日はお忙しい中、また外へ出歩くことが危険を感じるぐらいの暑さの中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本協議会の委員の皆様には、大変なご苦勞をおかけいたしまして、外部評価ということをやっているところでございますけれども、本日は私たち自身が昨年度の博物館事業について内部評価を行いましたので、そのことについてご説明をさせていただくということを中心に会議を進めさせていただこうかと思っております。

博物館事業は、ご存じのように多岐にわたっておりまして、どうしてもこの会議の中では十分な時間が取れませんので、なかなか説明が不十分なところもあるところなんですけれども、それを何とか改善したいと思ひまして、前回の会議の後にちょっとみんなで相談いたしまして、協議委員会カードというものを新しく作りまして、それを皆様にお送りしたところです。私たちの日頃の活動ですとか、博物館の様子を見ていただいて、文章だけではなかなか分からないところがありますので、そんなところを見ていただきたいなと思って作ったわけですけれども、と申しましても皆さん方、大変お忙しい方々ばかりですので、そんなに頻繁に日常の活動を見に来ていただくというわけにはいかないかと思ひますけれども、私たちの思いをご理解いただきまして、もし機会がありましたら、日頃の活動を見ていただけたらというふうに思っております。

本日も会議の時間はあまりありませんので、簡単でありますけれども、私のご挨拶はこれぐらいにいたしまして、本題のほうに入らせていただきたいと思ひます。どうぞよろしく願ひいたします。

○司会：申し遅れましたが、私は本日、議事進行までの司会をさせていただきます副館長の梶でございます。どうぞよろしく願ひいたします。

議事に入ります前に、定足数のご報告をさせていただきます。

本日の会議は中川委員、布谷委員、井本委員、澤田委員がご欠席と連絡がありまして、現在、遠藤委員が向かっておられるようですが、今のところご不在ということになります。協議会につきましては、滋賀県立琵琶湖博物館の設置および管理に関する条例第9条2項の規定によりまして、委員の半数以上が出席しなければ開くことができないとされておりますが、現在定数のうち7名にお越しいただいておりますので、定足数を満たしており、会議が成立しているということをご報告させていただきます。

また、同条例第19条第3項の規定によりまして、会長が会議の議長となることとなっておりますので、以後の議事は村上会長に願ひしたいと思ひます。

それでは、よろしく願ひします。

2 報告事項

水族展示室の水槽破損事故について

○会長：それでは、議事の進行をさせていただきます。皆様のご協力をよろしくお願いたします。

まず最初に、議題1の前に報告事項があるようですので、事務局のほうから報告をお願いいたします。

○梶副館長：まず、引き続きまして私のほうから説明させていただきます。水槽の破損事故のことにつきましてご説明いたします。座らせていただきます。

委員の皆様をはじめまして琵琶湖博物館でのご観覧をお楽しみいただいている方々に大変ご心配、ご迷惑をおかけした水族展示室の水槽破損の件につきましてです。

資料がございますので、ご覧いただきたいと思っております。資料1でございます。

この事故の発生は、令和5年2月10日、朝の8時頃ということでございました。破損した水槽は、「琵琶湖の主（ぬし）水槽」（通称：ビワコオオナマズ水槽）と言われる大型の円柱形の水槽でございます。ここにビワコオオナマズ1尾だけ飼育・展示していたというものでございます。

ちょっと資料が小さくて申し訳ございませんが、資料の中央部に書いておりますけれども、これの四角で囲っているところを見ていただきますと、この博物館の本館のほうから右上に入っていたところに水族展示があるんですけども、これのちょうど中央にビワコオオナマズ水槽というのがありまして、この部分が破損したということでございます。

この事故によりまして、その破損したところからの水流と水槽の破片でこの水槽の向かい側の通路壁が損傷したり、近くに設置しておりました椅子も押し流すなど、広範囲に浸水被害を及ぼしたということですが、8時ということで開館前でございましたので、来館者の皆様ですとか、スタッフが不在ということで、人的被害がなかったことが不幸中の幸いかというように考えております。

図の下側ですけれども、事故後の対応のところから説明させていただきますと、事故後、直ちに排水処理を行ったんですが、その水槽のアクリルの破片ですとか、中にありました擬岩（岩を模した物）が散乱するというような危険な状態でございますので、排水が完了したのは15時頃ということになっております。そこにおりましたビワコオオナマズを発見できたのは排水完了の少し前、事故から約6時間後ということでございました。ビワコオオナマズは若干ケガがあったんですけども、基本的に大丈夫ということで、今は元気に展示しております。

また、3月2日でございますが、夕方5時頃、ふれあい水槽という水槽で亀裂が発見されました。これは事故が起きました円柱形の水槽とは異なりまして、事故との関連性は低いと考えておりますが、水族の展示は閉鎖中でもありましたので、特段の人的被害

等はありませんでした。

また、事故後、水族展示室の閉鎖ということで書いておりますが、直後から全面的に水族展示室を閉鎖して、関係者以外立入禁止としております。ほかのA・B・Cの展示室等は通常どおりとしておりましたが、水族展示の閉鎖を勘案しまして、減額して観覧料を徴収したというところでございます。

水槽等の点検というところで書いておりますとおり、事故が起きてから全ての水槽につきまして、亀裂の有無等を目視の点検に加えまして、アクリルの水槽業者による点検を実施しまして、破損が危惧されるような水槽は全て水を抜くという対応を取っております。事故が起こった水槽と同じ形であったコアユが入っていたコアユ水槽というものにつきましては、改めて点検したところ、危険箇所はなかったんですけれども、事故のあった水槽と同じ時期に作製した同じ形の水槽ということを考慮しまして、安全面を考慮して水を抜いております。

また、トンネル型的水槽につきましても、それ自体はアクリルの厚みもありましたので安全かと思っただけなんですけれども、横のドーム型の窓等に懸念される部分がありましたので、ここも今、水を抜いて、トンネル水槽も今は水がないという状態でございます。

そのほか、合計13の水槽を今、懸念があるということで水を抜いている状態でございます。

真ん中に、第三者委員会と書いておりますけれども、この破損事故が起きましたので、これの原因推定ということで、水族館の水槽ですとか、建築設計に関する6名の専門家の皆様で、「滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会」というのを設置して、3月11日に1回目の会議をしていただいております。

ご覧のとおり、これまで3回ご議論いただいておりますが、現段階では最終的な報告書を受けるところまではまだ至っておりませんが、幾つかの事故要因などをご指摘、ご議論いただいております。来週の8月10日に第4回の第三者委員会を開催予定しております。委員会による事故調査報告書につきましてもまた報告していただける、議論していただけるという予定になっております。

最後、この水族展示室の状況で書いておりますけれども、事故直後から当館に対しまして非常に多くの支援の声を届けていただいております。我々も緊急点検を行う一方で、できるだけ皆様の声にお応えしたいというような思いから、安全確認ができた部分から展示を再開するというようなことにしまして、安全最優先ということでゴールデンウィークの混乱を避けまして、5月9日から水族展示の観覧を一部再開しました。この時点では、まだ事故区域等は閉鎖しておりましたので、行き止まりがあるということでご迷惑をおかけしたんですけれども、事故区域等に仮設の囲い壁を設置して安全面を確保できたということで、6月17日に閉鎖区域通路を全てなくして、全面的に通路は再開したというところでございます。

水を抜いた水槽、トンネル水槽とかにいました魚などはほかの水槽に移設しまして、そこで解説パネルを設置したりしながら分かりやすく示して、今までとは違った見せ方、見ていただき方ができるように工夫しております、展示している魚等の種類も事故前と同じ展示を実施しているところでございます。

また、当館を応援いただく方々と一緒に新しい水族展示を考えたいという思いで、「みんなでつくろう水族展示」と銘打ちましてイラストを募集しております、第1期は7月1日から「琵琶湖の魚」というテーマで募集しましたところ、48点もの応募がありまして、これは今現在、事故があったところの囲い壁の辺りに展示しているところでございます。8月1日から10月29日まで展示予定でございます。併せて当館へのメッセージなども書いていただくように工夫しております、これに合わせて第2期、第3期もイラストの募集をしていきたいと。一緒に皆さんと新しい水族展示をつくっていききたいという思いでアイデアもお聞きしたいというふうに思っておりますので、皆様の熱い思いを頂戴して、次につなげていきたいというふうに考えております。

私のほうから、破損事故に関する説明と報告ということでお時間を頂戴しましたけれども、説明は以上でございます。

○会長：ありがとうございます。

ただいまの報告を受けまして、ご質問やご意見等ありましたら、委員の皆さんよりお願いいたします。

○委員：皆さん、こんにちは。

周知のことをちょっとお聞きしたいんですけれども、こんな思わぬことだったので、職員さんはもちろんのこと、もうみんなびっくりした破損事故だったと思うんですけれども、何か事が起きたら、これをまず皆さんに、こういうことが起きたということをよくも悪くもお知らせするということがすごく大事ななと思っていて、それをあまり触れられていない中でお見えになって、えっ、こんなはずじゃなかったみたいなことはなかったかということと、8月10日に第三者委員会である一定の結論が出た後に、またそれをきちんとメディアのほうで公表なさるのかということをお聞きしたいと思います。

○泉副館長：事故が起きまして、当面は排水処理等で一旦職員は手を取られてしまったんですけど、その日の午後には公表というか、発表させていただきまして、なかなか全ての方に周知はできていなかったかもわかりませんが、5月9日に再開するまでの間に大きな窓口でのトラブルというのはございませんでして、残念だというようなお声をお伝えいただいたこともあるんですけれども、基本的には応援していただいている方の声をたくさん届けていただいたというのは非常にありがたいなと思っております。いろんな形、ホームページなどで閉めている状況とかもお伝えしてまいりましたし、その後、段階的に開いているというようなこともお知らせしていきまして、できる限りトラブルがないように努めてきたというふうに考えております。

また、第三者委員会も今まで3回しておりますけれども、3回目だけ、内容に踏み込んだことでもありますので、非公開にしまして、1回目、2回目は公開してやっております、3回目の非公開の部分も会議が終わり次第、1週間後に公表するという事で中身を公表させていただいております。4回目も公表する予定でございますが、できるだけ中身を明らかに、透明性を高めてお知らせしたいと思いますし、今後またどういふふうな形で報告書を頂けるか、まだこれからはなるんですけれども、第三者委員会としての報告書を皆さんにお伝えして、今後、改めて博物館の水族展示の取り組み方について皆様にご理解いただけるように努めてまいりたいというように考えております。

○会長：ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問等。

○委員：この後、中長期計画のほうに入ったら、もうこの話がなくなる仮定でちょっとお話しさせていただきたいと思います。

ビワコオオナマズの水槽、大変でしたね。お疲れさまで、全然終わっていないんですけれども、今日、ここの時間の前に見せていただきまして、私たちが入れるように、チケットも配布してくださったので、見せていただきました。水槽が壊れたからといって、ないのは残念なんですけど、あっ、残念だなという感じではなく、何かいろんな工夫の展示がされていたので、大変だったことだなと思って見ていました。

この水槽だけじゃなく、13の水槽の水を抜いているということで、あっ、そんなに抜いてあったんだぐらいな感じで工夫されていたので分からなかったんですけど、抜いているだけで今後それも修繕に入るということで予算の見積りをされていたら、いろんなところでびわ博サポーターみたいな、博物館サポーターで企業の方から寄附を募ってはるよとか、うちにも来はったよという話も聞いているので、一般の方とかの寄附も混ぜたら、お金はゼロではないと思うんですけど、この予算に移るということで、この中長期計画の中に見込まれていた予算も、これは別途になっているのか、博物館の総合的な予算を県からもらっている中で、これはこっちに振り分けるということになったら、いろんなところに弊害が生まれていて、ちょっと大変なんですということなのか、なので遅れることへの反論ではなくて、今回はこっちはもういいのかなとか思いながら読ませてもらって、こっちは大変だからなと思っていたんですけど、どういう影響があるのかなというのをお聞きしたいです。

○泉副館長：冒頭にお伝えいただきましたいろんな工夫の部分ですけれども、我々もできる限りどういう目線で皆さんに見ただけかということで、水が入っていないなということで、残念がられることがないように工夫して、やってみて、これでまた不十分ということであれば、日々変えるような取組もしてきたつもりではございます。工夫してもらっているなど言っただけだと非常に我々もありがたいですし、これは止まることなく今後も続けていきたいと思っております。

予算の面ですけれども、なかなかやっぱり通常ですら琵琶湖博物館にかかる予算とい

うのは非常に厳しい状況ではございますけれども、水槽の修繕ですとか、今後どういうふうな形にしていくとかいうのは当然大きな予算がまたかかってくるんですけれども、これでもともとやりたかった、やるべき業務ができないということではおかしくなってしまうので、もともとやりたかった部分をキープしながら、追加でこの水槽の破損に対応できるように、今、県庁のほうにも掛け合っているところですし、まだ途中ではございますけれども、それと改めて寄附もふだんからいろいろお声かけさせていただいているんですけど、この水槽の破損を受けて、さらにいろいろ声かけをさせていただいているところですし、もっといろんな形で外部資金を頂けないかということで、今現在検討しているところではございますので、中長期計画に定めるような事業ができなくなるないように工夫してまいりたいというふうに考えております。

○委員：このことで、いろんな企業さんを訪ねられたと思うんですけど、企業さんからの声を聞いていると、博物館の人が中だけじゃなく出ていかれるというのはいいことなのかなと思って聞いていました。初めてしゃべったとか、何かそんなこととかを聞いたりするので、壊れたのは壊れてしまったんですけれども、そういった面では人との面会とか、そういうのでコミュニケーションが取れてよかったのかなと思って聞いていました。ありがとうございます。

○梶副館長：ありがとうございます。

私もちょうどこの4月に参りましたので、就任挨拶ということも兼ねていろんな企業さんを回らせていただいたんですけれども、必ずそのときは水槽破損の話になりまして、皆さん、すごく応援していただくというようなことも感じましたので、実際そのお店で募金を集めておられた方が我々に寄附していただくというようなこともございましたので、そういう皆様の熱い思いを受けて、できるだけ早く安全に再開したいというふうに思っておりますので、また今後ともご協力をお願いしたいと思います。

○会長：ありがとうございます。

○委員：応援団ということで、お話しさせていただきます。

私も今、水族展示をずっと見せていただきまして、この水槽復旧に向けた「応援メッセージをよろしくお願いします」というのは、壊れた水槽の奥のほうにあったんですけども、いっぱい温かいメッセージが寄せられていて、本当に博物館を応援してくださっているんだなということを感じさせていただきました。来館者と共につくり上げていきたいという博物館の意気込みということも感じさせていただきましたし、それから魚のイラストもとってもよかったなと思っております。

イラストは、最初に黒川琉伊さんののがあって、その前にトンネル水槽があったんですけども、そのトンネル水槽のところは何もなかったもので、一つの提案ですが、例えば、黒川琉伊さんの絵をコピーさせてもらって、魚の形に切って、そしてぶら下げてみたら楽しいかなと、私なりに考えてしまったんですけれども、そういう楽しいことは子ども

さんにも受けると思うのです。そういうふうなことも、滋賀県民や京阪神の皆さんと共につくり上げていきたいというので、黒川さんだけじゃなくて、いろんな子どもたちの魚の絵をたくさんつり下げて見せるとか、何かそういうのも楽しいかなって、ふっと思いました。

○泉副館長：ありがとうございます。

メッセージは8月1日から実際実施したところですが、私も今日、昼休みに見に行ったんですけれども、かなりたくさん書き込んでいただいております。明らかに子どもさんの字だなというのでも、「頑張ってるね」というようなことを書いていただいておりますので、非常にありがたいというふうに感じております。

トンネル水槽のところの工夫がいま一つかなというのは、館長も常におっしゃっているとどこまでございまして、何とかしたいというように思っております、今のご提案もなるほどなと思いますので、また今後に生かしていきたいというふうに考えております。

○会長：ありがとうございます。ほかに、ご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

では、私からも1点、お尋ねいたします。

今日は、この後、議題（1）に移って、内部評価について説明いただいた後、それを受けて私たち協議会で、外部評価をどう進めていこうかというお話もしていくことになるんですが、その中でこの水槽の問題というのはどういう位置づけになってくるかというのをあらかじめ伺っておきたいと思っております。まだ外部評価の進行途中で、最終的には事故調査の報告書がまとめられる前の段階ということでもありますが、事故自体は昨年度のことになってきますので、その辺りはどうなるのか、ちょっと事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○泉副館長：後ほど、内部評価を我々がした部分の説明をさせていただく中でもあると思うんですけれども、この水槽は、博物館で展示する部分でかなり重みのある部分かと思っておりますので、先ほどの予算面も関係してきますけれども、もともとの中長期計画で定めている事業がこれでトーンダウンしないように工夫しながらやっていきたいというように思っておりますけれども、今回、お出ししていただきますのは、4年度の評価ということになりますが、実際には破損は2月でしたので、ほぼ10か月ほどは破損前の評価でありますので、2月、3月の破損を受けた部分での、特に施設の部分は、事業目標6とかでも、また後ほど出てまいりますけれども、関連していかないといけないというように考えておりますし、この見せ方という部分も全て、この事業目標のところに掲げている内容と関わってきますので、4年度の実績としては、ほぼ10か月間は破損がなかった状態でしたので、今後、こういうふうにしていきますという部分で、破損しているんですけれども、今、工夫してお出ししているようなことですので、水族だけではなく、改めてちょうど閉めているときに、A展示、B展示、C展示を集中して見たら、今まで感じなかったものを学ぶことができたというような声も聞いておりますので、そういう工夫をしな

がら、次につなげていきたいというように考えております。

- 会長：ありがとうございます。じゃ、冒頭にご報告いただきましたが、この後の内部評価であったり、外部評価をどうしようかという話にも、この水槽の問題が若干関わってくるということをご留意いただいて、それでは、議題（１）のほうに進んでまいりたいと思います。

3 議 題

（１）滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく

令和４年度事業についての内部評価について

- 会長：議題（１）「滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく令和４年度事業についての内部評価について」、こちらにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

- 事務局（企画・広報営業課長）：全体のまとめをさせていただいております。皆さんにお配りしている資料で、先ほど の報告事項が資料１ですけれども、その後の資料２・３・４・５・６は全て、中長期計画の評価と内部評価に関わる資料になっております。

資料２と３につきましては、皆様にお送りさせていただいている内部評価の資料です。

資料２につきましては、前年度も評価で行いました内部評価の事業目標１・２・３・４・５・６、それぞれについての評価と館長による総評という形で資料をまとめさせていただいております。

次の資料３につきましては、以前の協議会でご意見をいただいていた文章だけでは、ちょっと琵琶湖博物館がどう考えているのかがよく分からないということでしたので、一枚の図に、琵琶湖博物館が自分たちの事業について、どれぐらいできたのか。その計画についてどれぐらいできたのかということ、単年度については矢印で示して、全体の目標についてどれぐらい自分たちが進んでいるかというふうに思っていることについては、棒グラフで表すというような形の図にさせていただいております。これで我々がどういうふうに去年度、中長期計画に対してどれぐらい進んだのかというようなことを考えているということの概要が分かるというような図にさせていただいております。

それ以外に資料４については、重点事業についてのそれぞれの年度にどういうことをやろうとしているのかという計画、どこまでやろうとしているのかという計画について

まとめておるものです。これは以前の協議会でもお配りしているものです。この計画についても、今回の内部評価とそれに対する皆様の外部評価を受けた計画の見直しというのをこの後行う予定にしております。

資料5が、改めてですけれども、今、我々、第三次中長期基本計画でどういうことを目指しているのか、実際に行う重点事業がどういう方向に向かって行うものかというのを図示したものです。

改めてご確認いただくとありがたいんですけども、この第三次中長期基本計画は、「10年後の社会」ということを目指して、琵琶湖博物館が社会に対して行うことで、どういう社会を目指すのかというようなことを一番上に書かせていただいているものです。「多くの人々が琵琶湖とともに生きることを価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく」というようなことを目指しております。

それらを実際に行うためには、その下にある3つの要素が必要だというふうに考えております。それぞれの3つの要素がそれぞれ2つの要素として、事業目標1・2・3・4・5・6というような形で事業計画を立てているというようなくくりになっております。

最後の資料6が去年度もお願いいたしましたけれども、それぞれの事業目標に対して、琵琶湖博物館はこういうふうに考えているという内部評価に対して、皆様が外部評価として、これはちょっと考えが甘いんじゃないのとか、いや、もっとできているんじゃないのというようなことを記載していただく用紙ということで、参考資料としてつけさせていただいております。

本日は、我々、去年度行った事業について内部評価したものをご説明させていただきまして、それについてご質問、ご意見、ご議論をいただきたいというふうに考えております。

前回の議論のときに、順番に事業目標1、そしてそれぞれに説明と議論をするというやり方でやったところが、最後、全然時間が足りなくなりましたので、この中間的な目標の3つの要素ごとにご説明と議論を進めさせていただきたいと思います。

具体的には、事業目標1と2を先にこちらで説明させていただいて、それらについてご議論いただくというような形で、それが終わると、事業目標3と4について、その後、事業目標5と6というような形で進めていきたいと考えておりますので、どうか以上よ

ろしくお願いいたします。

○会長：全体説明のほう、ありがとうございます。

それでは、2つずつということですので、早速、事業目標1・2のほうからご説明をお願いいたします。

○事務局（研究部長）：まず、事業目標1について説明させていただきます。

研究に関しましては、事業目標としては、琵琶湖とその周りの価値が、地域の人々と一緒に発見して、国内外に広く発信するというところでやっております。

重点事業の1-1は、「世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進」ということで、柱として、現在、科研費基盤（B）の東アジアの古代湖の研究を行うということと、総合研究を進めるということとやっております。昨年度をもちまして、科研（B）の東アジアの古代湖の研究が終了しまして、現在、その研究成果がどんどん公表されている段階という状況にあります。

総合研究のほうは引き続き続けていって、次の総合研究を探しているという状況です。

2番目の「研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える」というのは、順次行っております。去年の段階で研究した論文を一般の人に分かりやすくするようにしようということで、ホームページを整理いたしました。今年の4月から早速掲載を始めまして、一番最初は、「石川千代松の魚類標本について」という、論文で公表したものを分かりやすく解説した形でやっております。

その他、従来の紙で出しておりました研究調査報告書をウェブに載せるということにつきましては、どんどん閲覧数が上がってきておりますので、一定の効果が出ているかなと思います。

環境の整備につきましては、去年は電子顕微鏡を買うことができて、一歩前進ということでした。今年は残念ながら、一旦白紙になってしまいましたので、次の大型の物が買えなかったんですけども、それとは別に外部からのご支援をいただきまして、別の方向の、例えば魚を孵化させるための装置であるとか、そういった物の整備をすることができております。そういったことで、できること、できないこと、凸凹があるんですけども、環境の整備も順次進んでいるという状況です。

○事務局（資料活用係長）：それでは、引き続きまして、事業目標2「資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備」というところで、まず目標ですが、ここにも書いてあ

りますけれども、具体的には資料をちゃんと維持管理して、それを皆さんが使えるようにするという、非常に博物館の根幹の肝心な話なんですけれども、ある意味、当たり前の話になっています。

それで、この5年後の目標というのを、整った環境で保管されている湖と人間の資料の情報がどこからでも使えるような状況に近づけるということになります。

それで、重点事業の3つの大きな目標についてなんですけれども、まず2-1の「標本・資料の管理体制の強化」というところについては、実はこれも、昨年前半は何だかんだ金が出たりとかして、かなり収蔵庫の状況を直していくことができたんですけれども、昨年度の後半の時点で突如、予算の緊縮という話になりまして、進んでいたものをストップするという状況になって、現状はあまり進んでいないというところなんです。ただ、昨年度については一歩前進だったと思っています。

それから、2-2の「標本・資料の整理の推進と公開による利用促進」というところなんです。これについては着々と進めてはいます。それで、これは前年度の話じゃないんですけれども、今年度はDX（デジタルトランスフォーメーション事業）というの、一つ採択になりまして、これをてこにしてさらに進めていこうというところで、去年はその準備段階ということが言えるかと思います。

2-3「ICTを利用して、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」。これをデジタルトランスフォーメーションの成果公開とかについては、これを進めていこうということになっているんですけれども、昨年度どのぐらい進んだかということになりますと、昨年度時点ではまだやはり準備段階というところで、そんなに進んでいるわけではないですね。いずれにしても、算段をして、予算申請をして、今年から少し動けるようになったということで、昨年、その準備は進んだということは言えるかと思っています。

○会長：ありがとうございます。ただいまの事業目標1・2の説明を受けまして、委員の皆様よりご意見、ご質問等お願いいたします。

○委員：1のほうは順調に進んでいるということで、資料3につけていただいたのが、本当に図式化されていて、分かりやすいなと思って拝見していました。この進捗度であるとか、達成率というのは、弊社のほうでも横展開できそうだなと思って、参考にさせていただきたいと思います。

ちょっとお尋ねしたいのは、全体的に見ていると、「維持・停滞」という横棒とかが

多くて、「順調に進んでいる」というのが少ないように思うんですけども、この評価は22年度にゴールしようと思っていた、それに対しての評価というのでいいのか、それか全体的に中長期で何年後に対しての、今、30%とか50%の進捗度というふうに捉えたらいいのか分からなくて、企業のほうで毎年自己評価とかするときには、1年、2年、3年の計画はあるけれども、3月の締めだったら、締めのときにこの状態になっている。目標に対して順調に進んだかどうかというところなので、例えば、「順調に進んでいる」というのは、計画どおりであるというのがまず中央値としてあって、それよりも先行してできていたのがプラスアルファになる。予定どおりよりちょっと遅れたという評価をしているので、これが進み具合としてどう評価したらいいのかというのが、すごく厳しめに見られているのかどうかというのをちょっとお聞きしたいなと思いました。

- 事務局（企画・広報営業課長）：これについては内部でいろいろ議論して、最初につくったものがちょっと甘過ぎるんじゃないかというので、大分厳しめにさせてもらっているものなんですけれども、今ご質問にありましたとおり、この矢印に関しては、この重点事業についてそれぞれの計画に対しての進み具合ということですので、重点事業の5年計画の、この場合、2022年、令和4年度の計画に対して、自分たちが進められたのか、計画よりもかなり進んだのか。だから、計画していたよりもかなり進んだという場合は、「順調に進んでいる」の上向きになりますし、計画どおりかなというような場合は、「やや進んだ」です。あまり進んでないけれども、現状維持に何とか頑張ってやったよというようなときは、「維持」ということになっています。

主に、施設面とかは故障が多かったりする場合は、物がどんどん壊れていっているのに、何もできていないという場合は、維持さえもできていないということなので、「悪くなった」というような評価にしております。

棒グラフのほうは、中長期の最終的なゴールに対しての感覚的な評価なんですけれども、今のところは、10年後の社会に対して、我々がどこまでやったらいいのかという数値目標というのがまだ立てられていませんので、それは5年目のときに計画をしないといけないことだというふうに考えていますけれども、今の段階では数値目標がありませんので、わりと感覚的にこの辺りを目指したいんだけど、まあまあ半ばかなみたいな感じの状態になっているかと思います。この概要の図も今回から始めたものですので、我々も手探りでやっている状況です。

- 委員：ありがとうございます。でも、すごく分かりやすく、同じ博物館の中の方でも、横のチームがどういう状況かというのもすぐに分かりやすいので、いいと思ったんですけども、今のご回答を受けまして、やっぱり横矢印がすごく多い感じがするので、せっかく本当にこれだけ報告書があるぐらい、皆さん、されていらっしゃるので、全部が「やや進んだ」みたいな感じなのと違うかなというふうに思ってしまったので、だからやっぱり厳しめなのか、評価の基準が数値目標じゃないがゆえ、難しいと思うんですけ

れども、私たちも自己評価をして、上司とすり合わせをするときに、やっぱり過大評価の人と極小評価の人がいて、どこにもっていくかなんですけれども、でも、「維持・停滞」ということは、1年間何もしなかったみたいなことになってしまうでしょということをよく言われてしまうので、じゃなくて、やっぱりトライしているのであれば、確実に進んだという形になっていて、大体が上向きだけれども、ちょっとできなかったところは横矢印みたいなのと違うかなというので、それはその方々によって捉え方というのは難しいと思うんですけれども、ちょっとこれを見ていると、何か横矢印だけだと、残念な感じになってしまったので、先ほど皆さんがおっしゃられたみたいに、工夫して各所されていらっしゃったので、そういう形に見えてくるとうれしいなと思いました。

○会長：ありがとうございます。よろしいでしょうか、今のご意見について。

○委員：ずっと以前からのご議論の中でも、現時点で数値目標を置かないということは、我々も了解しているんですけれども、例えば、事業目標2のICTを利用した云々という辺りは、恐らく取っ払いこうと思ったら、多分取れるものがあると思うんです。閲覧数であったりとか、何か。それを公表する公表しないはこれからもう少しご議論してからも結構だと思うんですけれども、やはり全体として、今の岡田さんの話ではないですけれども、漠然としたところがやっぱり多いという印象ですので、全部とは言いませんけれども、少し数値化で置き換えられるものは公表するしないは別にしても、内々の中で、皆さん方のご努力がこういうふうにし少し反映したとか、こういうふうに変化してきたというものを何らかの形でまたお示ししていただけると、我々も一つの基準にはなるなと思っていますので、全部とは言いませんけれども、数値化できる部分もあるなと思って、ちょっと聞かせてもらっていたので、そういうところも今後の課題として入れてもらったら、よろしいんじゃないでしょうかということです。

○事務局（資料活用係長）：お答えします。

どうもありがとうございます。実は、このデジタルトランスフォーメーション事業というのは、これは県費半分、あと国のデジタル田園都市国家構想なるものがあって、そこからの助成金が半分出ているんですけれども、このデジタル田園都市国家構想のほうの予算の申請の際に、KPIというのが定められたんですね。つまり、アウトプット及びアウトカムについてこういうところを2年間で数値として、一応こういう形でやるということを目指す。具体的には、電子図鑑として公開するコンテンツの数を、例えば、前年度の末で1,000あったんですけれども、それを1,200とか1,400とかに増やしていくとか、アウトカムのほうについては、閲覧数で評価をする。こういう形で申請をしております。次年度以降は、出そうと思えば、ここに、この月に提出した評価と同じものができるわけなんですけれども、そういうことだと考えたらよろしいでしょうか。

○委員：そうですね。我々の中でももう少し具体的に見えるものがあるといいなと思います。

○事務局（資料活用係長）：ただ、実は本音を言いますと、デジタルトランスフォーメー

ションというのは一種のイノベーションでして、創造的破壊に類するもので、ある意味やってみて、どっちへ展開するか分からないところがあるんですね。これを長期的にKPIで計られるのはちょっとかなわんなというのが実はあたりとかしまして、ですから途中からは、ここで来年の見通しとしてこういうところを目指して、それで結果としてこうだったというようなことに、ここではなるんじゃないかというふうに思います。

○会長：ありがとうございます。

○館長：ちょっといいですか。今、貴重なご意見をいただいたんですけども、お手元のほうに、25周年の資料集みたいなものを作っておりますが、その後ろのほうの80ページから95ページまで、ずっと棒グラフが出ていまして、これは25周年までのお話なんですけれども、こういう形で現在、こういうデータを取って行って、それでどういう傾向にあるのか。これがどれぐらいになると、一体何が起こるのか。例えば、入館者数をどんどん増やしていったらいいのかというと、増やしていくと、展示数が混んで非常に不快だったとか、電気代がかかるとか、いろんなことが起こると思うので、どれぐらいの人数が果たして目指しているものになるのか。ちょっとデータを取ってから、またいろいろ目標を決めていきたいと思っています。こういうデータをずっと取ることが重要だと思っております。

○会長：ありがとうございます。

ほかに、事業目標1・2につきまして、ご質問、ご意見、よろしいでしょうか。

○委員：先ほどの件とちょっと関連しているんですけども、何か無難というか、やっていない感じに見える。何も可もなく不可もなくということは、すごくきれいに見えるんですけども、結構問題をはらんでいたりとかというのがちょっと見えにくいとおっしゃったんだと思うんですね。だから、2人の委員がおっしゃったみたいに、努力したものは丸の矢印で表して、スピード感のほうをこの縦のバーで表す、計画的にもものすごく頑張ったという矢印で、横のバーはスピード感的にちょっとまだ立ち遅れているみたいな、そういう見せ方として出せばいいんじゃないかなと思いました。

それと、事業目標1・2の件なんですけれども、1番の研究の伊藤忠商事との連携研究においてというところなんですけれども、こういうところというのはすごく大事なところで、先ほどの水槽の件もそうなんですけれども、先だって、私、ファンドレイジングという方法の研修の通訳に入らせてもらったんですね。

ちょっと話が横にそれますけれども、びわ湖毎日マラソンというのがずっとあって、それがほんと大阪に持っていかれて、滋賀県で去年度、第1回のびわ湖マラソンということで、県が全てを任されて、1回目をやったと。そのときに7,000人のランナーとボランティアの方が3,000人が、そんな縮小はできないので、それを任されて、予算もない中でという話で、そのファンドレイジングということで、企業さんに回って、だけど、びわ湖マラソンに協力をお願いしますと言っても、なかなか協力してもらえない中、企

業さんのほうも社会貢献はしようと思っているのはとてもあるので、その企業企業で特化しているところに営業をかけて、環境にもものすごく頑張ってくれているところには、環境という提示をしたり、いろんなスポーツを支援している企業にはスポーツということで、ものすごい資金を集めて、第1回が無事に済んだというサクセスストーリーですけれども、そんなお話があったんです。

なので、今回の水槽に件に関しても、クラウドファンディングとか、そういうお金の集め方というのが、資金はもちろんなんですけれども、ファンドのファンというのは、ファンを増やすということにつながるというお話があって、それとPRにもつながるといこともあって、だから先ほど荒井さんが言ってくださったような、そういういろんな工夫をなさっていて、すごくすてきだったわというのを来館者だけではなくて、もっとお見えになっていない方にも見せるような仕掛けだとか、今、企業さんに、伊藤忠さんとそういう研究の費用を連携しているというようなことも、何かうまく見せて、そういう巻き込んでいくような手法が何かできないかなって、すごく感じたところです。

それと、もう一つは、事業目標2のところ、「だれでも・どこでも・いつでも使える博物館」という、とてもきれいな言葉なんですけれども、私は障害者の方々のお話をする立ち位置でここに座らせてもらっている、「だれでも」というところが、本当に誰でもだろうかというところがありまして、そここのところも琵琶湖博物館だけではなく進められないところもあるかと思うので、県立の視覚障害者センター、聴覚障害者センターというところもあるので、そういうところとかも巻き込みながら、いろんなノウハウをスキルアップできるようなことができないかなというのをすごく感じているところなんです。

それから、視覚障害の方の盲学校とか成人の視覚障害の方でも、ICTって、今とても役に立っている機器だと思うので、アクセスしやすい見せ方ですね。だから、PDFとかで貼り付けてしまうと、アクセスできないということになるので、それをテキストにするだけとか、いろんなノウハウは視覚障害者センターが持っているから、そういうところと連携しながらやっていくというようなことも考えていってもらったら、もっと上がっていくんじゃないかなと思いました。以上です。

○会長：ありがとうございます。今の点につきまして、事務局から回答、コメントなどはあるでしょうか。

○事務局（資料活用係長）：DXということで、そういうことでしたら、ちょっとヒントになることがあればと思って伺いたいことがあるんですけども、実はDXの事業で、資料の情報を発信するというで、実は今、滋賀県の代表的な生き物の図鑑を整備していこうとしているんです。ただ、いきなりぱしっとしたものを作るのは難しいということがあって、データベースで公開して、それを少しずつ直していくことを考えているんですけども、例えば、滋賀県の哺乳類図鑑とか両生類図鑑みたいなものを今

年度末から来年度頭ぐらいに公開しようとしているんですけども、こういうウェブ上の図鑑を、例えば視覚に障害のある方々が使いやすくしようとしたら、どういう工夫が考えられるのか、そういうところだと思うんですね。これを5年間ぐらいのタームでやろうとしているDX事業のうちの2年目、3年目辺りから、徐々に投入していくということになると思うんですけども、何かそのときに、こういうところへ話を聞きに行ったらいいとか、あるいはこういうアイデアがあるというのがもしありましたら、教えていただけるとありがたいです。後で結構です。とりあえず、すみません。

○館長：今後いろいろ教えていただけたらありがたいと思いますが、今日は時間がないので、後で。

○委員：そうですね。

○委員：ちょっと質問なんですけれども、先ほど事業目標2のところ、遠藤さんが数値のことをおっしゃったんですけども、お答えの中で、アウトカムから見たことがというふうにおっしゃっていたんですけども、もしアウトプットで数字が決まっていて、県の半分じゃなくて、国の助成のほうで申請して、アウトカムじゃなくて、アウトプットの数字が定められて、それに向けて何か頑張っているというのであれば、はっきりとした数字があるということですか。

○事務局（資料活用係長）：はい。昨年度分ではないんですけども、今年度分についてはある程度分かります。

○委員：それは達成できているということですか。

○事務局（資料活用係長）：それは今年度の終わりの時点での指標ですので、現状でそこに向かって進んでいるというのは、一応今、申請、各段階で確認しているんですけども、達成できるかどうかというのは、終わってみないと分からないということになります。

○委員：それはでもアウトプットの数字なので、じゃ、アウトカムから見たら、現時点では達成しているということなんですか。

○事務局（資料活用係長）：実はアウトカムのほうも、この国のデジタル田園都市国家構想というのでは、指標化をしろと。KPIを出せということをやられていまして。

○委員：じゃ、今のところはない。

○事務局（資料活用係長）：はい。ただ、これはウェブページのほうの情報を整備した結果として、それを利用する人がどのぐらい増えるかというところにかかっているもので、これについては今年度末でも、まだあまりはっきりしたものは出てこないかもしれないです。

○委員：分かりました。クリアできただけにかかわらず、もしあるんだったら、そうやって書いておいてもらおうと、私たちにも分かりやすいかなと思います。ありがとうございます。

○事務局（資料活用係長）：ありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。

私のほうからも1点、事業目標1-1についてお尋ねしたいと思います。

科研の基盤（B）の東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明の研究が終了したということですが、今のお米の展示もそうですし、昨年のチョウの展示なども、何年も研究されていた積み重ねが展示になって、こうやってこういう形で結実したんだなというふうに思うことが度々あるんですけども、この研究についても数年後に展示のような形で、研究成果を公開されるようなご予定がありそうかどうか。1-1に書いておられるほかの研究についても構いませんし、先々展示につながってきそうな種が育ってきているかどうかという辺り、お尋ねしたいと思います。

○事務局（研究部長）：基盤（B）のほうは、ちょっと私はあれなんですけれども、今やっている総合研究については、来年の企画展と再来年の企画展に部分的なものですけども、研究成果を発表するという形で、今進めております。

基盤（B）のほうは、A展の次の機会にやる。

○事務局（企画・広報営業課長）：私が答えるのは適切かどうか分からないんですけども、基本的に企画展示は、琵琶湖博物館で行った研究をベースに、研究を公表するツールとしての企画展示というような位置づけで行っております。ですから、去年度も今年度も共同研究もしくは専門的な研究の成果を基に構成するという事になっております。ですから、この中長期の事業目標1で言うと、1-2というのがこの成果公表で、多くの人たちに知らせるといふようなことの目標にはなっているかと思っております。

今やっている共同研究とか、外部資金で行っている研究等もいつかは分かりませんが、常設展示の更新に使っていくということになるかと思っておりますし、企画展示に関しては、今のところ、30周年のとき、2026年の企画展示まで計画が決まっております。それ以降についても、共同研究とか総合研究の進み具合と成果の出方とかを見ながら、計画を立てていくということになっております。

○会長：ありがとうございます。

それでは、時間のほうもありますので、次の事業目標3・4のほうに移ってまいりたいと思っております。事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局（環境学習・交流係長）：事業目標の3となりますが、目標としましては、「みんなで学びあう博物館へ」ということで、実施目標としては、様々な人々といろんな団体、組織などと連携して、交流事業の充実を図るとともに、新たな場の創出を考えていくということなんです、それと含めて、利用者たちが今度実施者になったという形で実施していこうということを進めようとしているところです。

そのためには、大きく3つに分けて考えておまして、3-1と3-2と3-3で、1番目の3-1の「幅広いニーズに応える交流事業の充実」というところなんです、

この部分につきましては、いろんなニーズを諮りながら、様々な人たちに参画していただくというような形で実施させていただきました。

ところで、その後のアンケートなどの収集の結果からすると、専門的な知識あるいは多様なイベント系の事業の実施というニーズが非常に高いというところで、ただ、ここでは担い手の立場からすると、利用者が今度実施者になっていくというところなんですけれども、ここは課題の一つとして残っている。今後考えていかなきゃいけないというところなんです。

2つ目の3-2「出会いの場の創出」なんですけど、ここでは1つ、「びわ博フェス」というイベントがありまして、これまでと違う形の「びわ博フェス」を実施しまして、そこで多くの出会いと創出の場をつくることができました。そういう意味で、一つは進めたかなというふうに思います。一方では、制度的に、仕組み的に考えようと。その場の創出を何とか改善して、解決したいと考えているところなんですけれども、制度的な側面から考えるというところなんですけど、まだできていないところで、今後さらに検討していく必要があるという点で、不十分なところなんです。

3番目の3-3ですけれども、「深く学び合う」というところなんですけど、うちの博物館に来てくださいますと、教員の方々が体験学習をいろいろしていただくということなんですけれども、ほとんど学校や現場に戻って、それから体験学習をするようなプログラムの実施とか、そこまでは至っていないというところで、ここもいくつか、事業としてこの辺はどうやって今後改善していけるかどうかについては、課題として残っています。次年度、さらに進めていきたいと思っています。以上です。

○事務局（展示係長）：引き続き、事業目標4について説明いたします。

事業目標4は、琵琶湖を知る入口としての展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させるということで、主に展示室を舞台に、知る楽しみ、学ぶ楽しみをより広げて、深めていく仕掛けをいろいろ工夫して展開していくことを目指しております。

3つの重点事業ということで、下の欄に移らせていただきますけれども、1つ目は、「誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長」ということで、事例として挙げておりますのが、音声ガイドについて少し詳しく説明をしております。このことに関しては、昨年度末でこれまでリニューアル後使っておりました「びわ博ナビ」というプラットフォームが使用停止になるという形で、そこから「ポケット学芸員」というプラットフォームに場所を移して、内容を新しく展開することになりました。

昨年度末までの評価ということであれば、「びわ博ナビ」もまだ稼働していたわけなんですけれども、実際問題として、使えなくなる「びわ博ナビ」から「ポケット学芸員」に移すときに、これまで使っていたコンテンツの一部が使えない状態になり、我々は、維持して発展することとして努力をしてきたんですけれども、結果として少しサービス

が低下してしまったというふうに感じましたので、最終的な評価としては、「維持・停滞」という形にいたしました。

2番目の「『観る』展示から『観る+使う』展示への成長」ということに関しては、新型コロナウイルスの感染防止で博物館が臨時閉館していた時期も含めて、インターネットでのいろいろな素材の提供など、努力してきたわけなんですけれども、そういったことをもっと展示室からも積極的に使っていただけるようにということでもしてあげたけれども、これも昨年度末で、実際こちらが設置したものがどの程度使われて、それがどう効果的だったのかということについての検証が十分ではなかったというふうに私たちは感じて、いろいろ日常的な小さな努力はもちろんたくさんしているわけなんですけれども、結果として十分にできたという評価をいたしませんでした。引き続き、もっと拠点を増やしていく、それと内容を深めていく。内容を検証して、本当に必要なものを見極めて提供していくということで、努力をしていきたいということにしております。

3番目の社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長というのは、先ほど研究部のほうから説明がありましたように、展示の中身については最新の研究結果を生かして、どんどん更新をして、新しい情報も細かく追加をしていっている状態なので、これについては、内容については進んでいるというふうに我々は考えております。ただし、ビワコオオナマズの水槽破損に関して、一部展示室が使えなくなるとか、リニューアルで水族展示室というのは躯体の部分はあまり触ることができなかったんですけれども、今回の水槽破損を受けまして、今後、躯体に頼らず、仕掛けに頼らないで、どのように新しくいい展示をもっとさらにつくっていくかということ意識して考える機会をいただいたものと建設的に捉えて、進めていきたいというふうに思っております。以上です。

○会長：ありがとうございます。

冒頭でご報告いただきました水槽の破損の話もこの辺りに関わってくるということ、事業目標3・4につきまして、ご質問、ご意見、お願いいたします。

○委員：事業目標3「みんなで学びあう博物館へ」というところで、特に私、学校現場におります3-3の「『深く学ぶ力』に基づく琵琶湖学習の支援」というふうなところで、博物館の皆様にはいろいろと考えていただいて、教員を対象にというふうなところで取組をいただいていることに本当にありがたく思っています。ただ、ここにも書いてあるように、せっかく学んだことが学校現場で活かされていないというふうなことが書かれてあるというのは、ちょっと私も、学校現場を預かる身としては残念だなというふうに思っています。

ただ、間違いなく今後といいますか、こうした学びというのは、子どもたちにとっては大切なものだというふうなことは思っていますし、私はこの学区にある草津の小学校なんですけれども、割とESDの取組というふうなところが、草津なんかは結構今言

われていますので、そういったところからも、絶対ニーズはあると思うので、その辺りというのは、ここにも追跡調査を実施しながら、研修内容の改善というふうなことを書いていただいているんですけども、逆に言えば、何で実施ができないのかというふうなところは、また場合によったら、アンケートなんかでも聞いてもらってというふうなところで、ひょっとすると、そこの中でヒントになるようなことも出てくるのかなというふうなところを思っています。

本当に本校なんかだったら、体験的な学びというのは校区の特性というふうなところもありますので、外へ出てというふうなところで、生き物であるとか、あるいは田んぼなんかは小学校で言うと、県内のほとんどの5年生の子供たちがそこでの学びというふうなことをしていきますから、そういったところで「おこめ展」というふうなところも今企画されているんですけども、結びついていくなというふうに思いますので、ここからはぜひともこれからも実施していただけたらなというふうに思いますし、学校現場としても、もっとそういう学びを大事にしてほしいというのは、先生方のほうにも言っていきたいなというふうに思います。どうぞよろしくをお願いします。

- 事務局（環境学習・交流係長）：コメントをいただきまして、ありがとうございます。今後の課題としては、このようにアンケートの中身をもうちょっと精査しながら、博物館として、実施する側にとっても、受ける側にとっても、お互い、今後、現場で実施しやすいような方法を検討しながら、進めていきたいと思っております。

一方では、その原因はいろいろあるんですけども、例えば1つは、今、研修を受けた後にすぐに実施できなかったとしても、今後長い目で見ると、こういうようなやり方でまた別の機会がありましたら、また実施できるようになるというような方々もいらっしゃるのでは、そういう意味で先ほどコメントの中でおっしゃっていたようなこともあると思いますので、そのことも含めて博物館側としては、今後の実施の仕方について、さらに検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

- 会長：ありがとうございます。ほかに、ご意見、ご質問等、いかがでしょうか。
- 事務局（研究部長）：実はこれ、学校の先生の専門研究でやっていることでもあるので、ちょっとその方面で補足しますと、アンケートを取って、どうしてできないんですかというのをやっぱり聞いているんですけども、先生ご自身はなかなか体験をする機会がないので、琵琶湖学習をしなきゃいけないといったときに、どういう体験をさせたいんだろうというところで、すごく悩まれているというのがあるので、それに合わせたプログラムを開発したいなというふうに、これをやっている者は言っておりました。

- 会長：ありがとうございます。

- 事務局（企画・広報営業課長）：すみません、遮ってしまって申し訳ないです。

感想みたいな感じになるかと思うんですけども、つい先日、「自然調査ゼミナール」というのを、毎年この時期に有志の先生たちとやっている行事があるんですけども、

私はこれに参加していないんですけれども、参加していた学芸員の感想を聞くと、これまでの学校の先生たちというのは、自分たちが体験していたこと、こんなに面白いことを子どもたちにもやらせてあげたいから、琵琶湖博物館、一緒にやりませんかという態度だったんですけれども、最近の学校の先生たちは、自分たちもよく分からないから、一緒に体験させてくださいというような雰囲気があるというふうに聞いています。ですから、先生方たちにも、その体験の部分ができるいけないので、まずは先生たちの体験というのが必要になってきているのかなというふうに思います。その点は今も芳賀が言ったように、当館に来ている学校の先生たちも感じているところですので、どういうふうにしていったらいいのかというようなことを検討していくということだと思います。

○会長：ありがとうございます。今の点につきまして、ほかのご意見、よろしいですか。

○委員：今の教員の方々の、体験的な学習を研修はするけれども、実際にはなかなかという話なんですけれども、私、初任研とか、特別支援学校の聞こえない先生の通訳に入ることが多々あるんですけれども、そういうときにやはり、いいものだけでも、知的とか、発達さんとか、いろいろな行動障害があるという子たちがここに来にくいとか、盲学校の方が移動的にしんどいので、ここには来れないとか、（県立）聾話学校の子たちがここに来て通訳がいなくて、そういうようなこともあろうかと思うので、そこは別の場面で、聞こえない人たちがリアルには参加しにくいんだけど、オンデマンドで映像を流しながら、通訳をつけて、自分たちのエリアでそういう学習を深めるという手法も最近はすごく増えているので、何かZ o o mなどで、ここに来なくても、学芸員さんと交流ができるだとか、いろんな質問をし合うような場面を何か工夫してもらおうと、学校にいながらにして、ちゃんとした配慮が整った学校現場で、この琵琶湖博物館とつながって、学びを深めるということもできないかなあと思っているんです。

それでまた、その子たちが家族に言って、ここに家族として足を運ぶということもつながってくるかなと思うので、そういうような工夫も一回ちょっと、出前講座的なものも含めてやってもらったらどうかと思いました。

○館長：先ほどのお話もそうですし、今のお話もそうなんですけれども、結局、博物館の人手も人員も限りがありまして、いろいろなことができるといいんですけれども、実際にはあまりできないので、例えば、学校の先生方に来ていただいて、その人たちがまたそれをつないでいただいて、広めていただくとか、一般のグループの方が来ていただいて、また地域で広めていただくとか、そういう形がいいんじゃないかなと思っっているんですね。博物館のいろいろな技術とか、知識とか、体験とか、思いがほかのいろんな人を通じて広がっていく。そういうことが実際にできることかなというふうに思っているところなんです。

結局、博物館だけではなかなかできないので、先ほどの学校のお話もそうですけれども、多分、学校のほうにもいろいろな問題があって、広められない理由があると思うん

ですね。先生方は忙し過ぎて、夏休みも学校に行っていないといけないと。以前だったら、夏休みは時間が少しあって、自分たちでいろいろな調査旅行に行ってみたりとかするグループがあったと思うんですね。そういうこともできないので、体験が少なくなっているということもあると思うので、学校は学校のほうでぜひそういうこともできるような働きかけをしていただきたいと思いますし、そういう場面で一緒に考えていって、この地域全体が面白い活動ができる、みんながやっという気持ちになるようにしていきたいなど、博物館では思っているところでございます。よろしくお願ひいたします。

○委員：今のお話にちょっとだけ付随して、せっかくいただいた25周年の分の87ページの3-6の図（教職員等研修件数）ですが、今、高橋館長がおっしゃった話で、何となくは理解できるんですが、これの3-6の分析というのはしっかりできていらっしゃるんでしょうか。以前はかなり数字も高かったわけですね。ここ10年、20年がずっと停滞したままじゃないですか。ここらのちゃんとした、なぜこうなってしまうているんだという、この辺の分析をしっかりされて、それは博物館側の問題もあるでしょうし、当然、今おっしゃったように、教員側の問題もあるでしょうけれども、こういうふうに数字に表れてくると、非常に顕著に違いがあるので、この辺のきちっとした分析も踏まえて、先ほどの事業目標3・4とつなげていただけると、非常に伝わるものがあるなど思っていますので、ついでに申し上げました。

○事務局（環境学習・交流係長）：ありがとうございます。このデータからの分析というのはさせていただいておりますけれども、まだ不十分なんです。不十分なところなので、最後のまとめみたいところはまだできておりません。今年にかけて、さらにその辺の分析もして、その結果に基づいてお互いのやりやすいほうで、より進められるような形で検討しようとしているところです。

それと、先ほどのコメントの中で、対象者とそれぞれの現場の事情、あるいは一人一人の教員の現場の事情も考えた形で、こちら側としてのやり方と評価の中身も含めて、さらに改善をしながら検討していきたいと考えております。ありがとうございます。

○会長：先ほど挙手されていましたが、いかがですか。

○委員：ちょっとページを見失ってしまったんですけども、この年報をいただいたところに、小学校の参加人数というのが書いてあって、全体的には136ページのところに、県内だと185で、昨年の179より増えたという項目が、もう少し前のページにあったんですけども、特別支援学校さんのほうが増えたという記述が見受けられたので、ちょっと田淵委員が先ほどおっしゃってましたんですけども、昼食が食べられるようなスペースを工夫されたとかいうことがちょっと書かれていたので、何かそういうことがプラスになったのかなと思いました。

ちょっと気になったのが、185校というのがどれぐらいの割合なのかなと思って、今ちょっと調べていたんですけども、滋賀県内、小学校は220校ぐらいあるらしくて、1

85ということは、特別支援学校をどういうふうにカウントされているか分からないですけども、84%ということで、ほとんどの小学校の皆さんが来られているという形なんですけど、残りの16%というのはアクセスのことなのか、学校さんの事情なのか分からないんですけども、例えばうみのこって、滋賀県の小学5年生全員乗りますよね。だから、琵琶湖博物館も全員行こうとなると、何か取り残されてしまった16%の学校さんもみんな体験していただけるようになるので、いいのかなと思いました。以上です。

○会長：ありがとうございます。

事業目標3・4につきまして、ほか、よろしいでしょうか。

それでは、ここで一旦休憩のほうに入りたいと思います。5分程度で、3時半からぐらいでしょうか。事務局のほうからお願いいたします。

○事務局（企画・広報営業課長）：あまり時間がないんですけども、トイレ休憩は取りたいと思いますので、5分程度、前の時計で30分から始めさせていただいてよろしいでしょうか。

○会長：それでは、5分休憩いたします。

（休憩）

○会長：それでは、時間になりますので、再開したいと思います。ご着席のほどお願いいたします。続きまして、事業目標5・6につきまして……。

○委員：すみません。その前にちょっとお尋ねしたいことがあるんですけども、よろしいでしょうか。

私は大津市に住んでいます。今、廣瀬先生からお聞きして、廣瀬先生のところは草津ということで、ほとんどこの琵琶湖博物館を利用しているのは、3年生で、社会科の「昔のくらし」学習で、富江家などを利用して学んでいることは良い体験だと思っています。大津市もそうなんですけど、5年生が琵琶湖学習をする場合は、琵琶湖学習のほとんどがフローティングスクールでして、子どもたちにとっては、それがすごく大切な体験だと思っています。でも、琵琶湖学習をしようと思えば、やはりリニューアルされたこの琵琶湖博物館に子どもたちが足を運んでほしいと願っています。フローティングスクールのうみのこが、この琵琶湖博物館の横に船を泊められるのかどうかとかいう話をしていたんですけども、そういったことができれば、それは連携できて、すごい深い学びになるんじゃないかと、私は以前から思っております。接岸できるのかどうかということ

○梶副館長：琵琶湖博物館の前のところに、港というか、船着き場があるんですけども、以前、船が着いたりしたこともあったんですけども、今、そこがちょっと浅いんですかね。ちょっと浚渫というか、底が浅くて、うみのことかの接岸が難しいというようなことがあります。私も今年度ここに来たんですけども、そういう連携ができたらいなというように思っていたんですけども、聞いてみると、ちょっとそういう問題が

あって、できていないというようなことがありましたので、今後、そういう連携とかがもしできるようであれば、「うみのこ」は難しいですけれども、もうちょっと底の浅い船もあるはずですし、環境学習船の「megumi」号というのがあったと思いますけれども、そういうのができるのかどうかというの、港の部分の整備とかも含め、併せて考えていくべきだと思いますので、ちょっと博物館だけではできませんけれども、課題としては我々も持っておりますので、その辺また考えていきたいと思っています。

○委員：県の教育委員会にも働きかけていただいて、またよろしくをお願いします。

○杲副館長：分かりました。

○会長：ありがとうございます。

私も以前から疑問に思っていたことだったので、この機会に伺えてよかったです。

それでは、議事に戻りまして、事業目標5・6につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（企画・広報営業課長）：事業目標5について説明させていただきます。

事業目標5は、「より多くの人々が利用する博物館へ」ということで、実施目標としては、「ICTを活用し、世界を見据えた広報を展開して、より多くの人々の利用を実現します」ということです。

5-1、5-2、5-3とありますが、1と2については、ICT、インターネットの関係で、広くいろんな人に情報発信していくというような内容です。

5-1に関しては、これまで資料データベースの公開であるとか、博物館の利用についての展示室の内容等をホームページで紹介しているところです。去年度に関しては、地域の情報については、地域で活動している人であったり、琵琶湖博物館にあるはしかけ、フィールドレポーターさんがやっている内容を「びわ博フェス」というところで公表していただいていますので、その内容をインターネットページでも公表できるようなプラットフォームづくりをいたしました。

事業目標1のところでも芳賀が説明いたしましたとおり、研究の内容をよりわかりやすく発信するというようなページづくりもいたしましたので、博物館の活動のいろんな面について、当館のホームページで紹介するようなページづくりを5-1で行いました。

その他既存のSNS、フェイスブック、ツイッター、ユーチューブ等を活用して、博物館の活動というのをどんどん公表していつているところであります。

5-2につきましては、アンケートの内容を集計しながら、いろんな方の意見をいただいて、それを事業へ反映するというところなんですけれども、意見をいただくというところで、まだきちっと事業への反映ができていないというようなことで、まだ現状維持の状態かなというところです。

来館しやすい環境の整備については、重点事業の目標としましては、キャッシュレス・チケットレスのシステムを経て、いろんな方の利用状況を聞きながら、改善していくと

というようなところを目指しているところなんですけれども、キャッシュレス・チケットレスはできたものの、まだそれらを博物館のホームページのトップページからリンクバナーをつけて、事前にキャッシュレスで行えるような行いやすさを行いましたけれども、利用に関しての状況がまだ解析できていませんので、現状維持かなというようなところ
です。事業目標5は以上です。

○事務局（総務課長）：続きまして、事業目標6のところでございます。

「博物館の活動を安定して継続する」ということで、その下にありますように、老朽化した施設の改修、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定を図るために、様々な支援を受ける仕組みづくり等を目標として挙げております。

真ん中下のところに、重点事業の実施状況として、2つ挙げさせてもらっています。

6-1のほうですが、「老朽化した施設の改修と災害への備え」という形になります。当館は平成8年にできてから27年を経過して、大分たっております。このため、最近ですけれども、やはり故障の度合いがどんどん高くなっていますし、故障の内容もどんどん厳しいものになってきているという状況でございます。その都度、改修等もしておるんですけれども、なかなか次から次へいろいろな故障があつて、対応が追いついていないというのが実際のところでございます。どうしてもここまで来ますと、一定計画をつくるというか、改修の計画をきちんと立てて、それなりの財源の措置をしてもらって、改修を進めていかないと、ちょっと間に合わないかなというようなタイミングに来ているかなと考えております。

そのような中で、先ほど冒頭に話がありました水槽の破損事故というのも起こりました。あれも開館当時に置いた水槽でございましたので、様々な要因がありますが、1つは老朽化という部分もあったのかなとも思われます。あの水槽の破損のときには、当時、できる対応を最大限、職員等ではやりましたけれども、抜本的にはああいう事故が起こる前に、中の改修等に手をかけなければいけなかったのかなと考えております。なかなか現実的にまだこの計画等が策定できているのかというと、まだのところがございますので、評価のところを見ていただきますと、唯一ここだけが全体的に悪くなっているという評価で表わしているような、そういうような状況でございます。

ただ、本年度は調査の経費というのをちょっといただいていますので、施設改修の中長期の計画のようなものを策定して、予算の確保に向けてまた始めていければと考えているところがございます。

6-2のところ、これも先ほどのお話にもありましたように、新たに修繕等も含めてですけれども、安定的な活動をするための財源の確保、今現状でも様々なサポーター制度であるとか、寄附金をいただいております。ただ、今回、水槽の破損事故というのがありましたので、それを受けて温かいご支援のお話とかもいただいておりますので、ぜひその機運といたしますか、そういうお気持ちをうまくご支援につなげるような形という

のは考えていけないかなあということで、今、事務局のほうで考えているところがございます。

その結果としまして、資料3のところでは挙げさせていただいておりますけれども、6-1の施設の改修については、矢印下のほうにちょっと下げさせてもらっていますし、安定した活動基盤を確保する仕組みづくりにつきましては、現状維持という形で内部評価のほうはさせていただいているところがございます。

○会長：ありがとうございます。

今の説明について、ご質問、ご意見等をお願いいたします。

そうすると、水槽に関しては、先ほどの事業目標4のところと、今の6-1と6-2に関わってくるということですね。ほかの点につきましても、ご質問、ご意見等お願いします。中野委員、お願いします。

○委員：事業目標5のところなんですけれども、5-2で、駐車場や昼食場所などのところで検討が必要であるということなんですけれども、向かいの広場がありますよね。あれはILEC（アイレック）の施設なんですか。あそこは使える。

○事務局（企画・広報営業課長）：今、昼食場所としては、一般の方ではなくて、団体利用ということになっているんですけれども、その前の屋根つきの広場、うみっこ広場、あそこは学校・団体等、団体の方が朝来て、お昼でもいいですけれども、空いていたら、場所取りをして、何かで使えるというような形になっています。

それ以外に、障害を持たれている方とかが過ごしやすいように、向かいのILECの一部を使わせていただいて、昼食場所等、休憩場所に使っているというところなんです。ただ、それらの利用に関しては、主に団体の方なので、一般の方に関しては、そういう昼食場所がレストランしかないとか、お昼を食べる場所が外に行かないといけないとかというようなことがありますので、この点に関してはいろいろとご不満をいただいているところです。

今年度に関しては、お昼は8月中にレストランの上のカフェテリアをできるようにしていますし、お盆の期間中は多分多いと思われまので、この部屋をできるようにということなので、今、計画しているところなんですけれども、いずれにしても、お昼に関しては、レストランが狭いということと、時間的に皆さん、集中することになるので、食べる場所が少ないんじゃないのかなというようなご意見をいただいています。

駐車場の件に関しては、我々はふだん、あまり気づかないんですけれども、初めて来た方というのは、駐車場からどこに行ったら琵琶湖博物館あるのというふうになっておられるようなので、もうちょっと分かりやすくしてほしいというふうなことを聞いています。以前、そういうことを聞きましたので、クイズの看板を立てて、それを順番に来たら、博物館に着くというようなことも実施はしているんですけれども、そちらもなかなか分かりにくいというようなことですので、こっちに来たら琵琶湖博物館というよう

なことを実施していかなきゃいけないというふうに感じているところです。

○委員：分かりにくいというのは、クイズが順番には、結構近くに来てからで、駐車場は広いじゃないですか。歩けよという話なんですけれども、車で来ている者にしてみたら、ここに限らず、建物に近いところがどこか分からない。例えば一番近い枠の中でも、ここに停めるより、こっちに停めたほうが近いときもあるじゃないですか。ここだったら、坂を上っていく。本当はみんな、やっぱり奥に行ったほうが近いのかなとか、手前に行ったら近いのかなと思うので、駐車場に入ったところというか、道すがらにこうだよというかわいい地図があれば、下りてから、クイズに答えながら行くというよりは、ぱっと見て分かるところにあるとか、森の中にあるので、入ってきたときでも、「みずの森」は分かるけれども、博物館は遠くからは見えるけれども、駐車場に入ってしまうと、こんもりしているので、多分見えない。それがあるのかなと思います。すみません、車見せて。

○事務局（企画・広報営業課長）：いえいえ、ありがとうございます。

○委員：それと、一般の人は、じゃ、うみっこ広場は使えないということですか。

○事務局（企画・広報営業課長）：はい。今のところはそういうことになっています。

○委員：家族で来る人って、レストランの数が少ないと言われて、レストランの席数が少ないのか。それはちょっとレストランの利用客のことですけれども、家族で出かけるときって、休みだったら、お弁当を作って、一日出かける。そのお弁当をどこで食べたらいいのかなって思われると思うので、晴れている日は芝生でみんな食べていますけれども、晴れていても暑かったりすると、うみっこ広場、黙って使っていたら、何も言われないと思うんですけれども、案内をしたらだめなのかどうか。案内してまでは使わないでとなっているのか、すみません。

○委員：すみません、一つの提案なんですけれども、夏休みは学校・団体は来ない。ということで、うみっこ広場を一般の人に提供されてもいいんじゃないかなというふうに思いました。

○事務局（研究部長）：土日とか夏休みとかは使っていただいているんですけれども、先ほどお盆のときとか、この部屋を用意と言ったのは、今の時期だと、うみっこ広場で食べてくださいも地獄の状態になるので、本当は室内でゆっくり食べていただける大食堂があるといいんですけれどもというところです。季節のいいときは、利用いただけますし、屋上広場、屋上が使えますので、そういったところもご案内できるんですけれども。

○委員：以前、このセミナー室が使われたということはあるんでしょうか、真夏時に。

○事務局（研究部長）：はい、あります。

○委員：今年度は考えておられるんですか。アフターコロナ、コロナのこともありますが。

○事務局（企画・広報営業課長）：今年度はお盆の時期はこの部屋を使うということにな

っています。お盆以外の日については、2階のカフェテリアを使っていただくということにしています。

○委員：それと、先ほど委員からの提案で、地図を設置したりとかいうのがあったんですけども、例えば視覚というか、目に訴えるということで、琵琶湖博物館はこちらだよという、駐車場の道に。そういったものでずっと導いていくという誘導する目印のようなものがあるといいかなと思います。琵琶湖博物館は「こっちですよ」という大きな看板と共に。

○館長：前からそれはずっと話題になっていまして、問題の一つなので、おっしゃるように、道に何か色をつけるとか、坂を上る方向に何か高い印をつけておくとかすればいいんですけども、ちょっとやってないんです。ごめんなさい。これは課題なので、また早急に考えたいと思います。

先ほど、坂道のところにいろいろクイズをつくったというのは、あれは目印ではなくて、坂道を上ってくる人が大変で、退屈で苦勞するし、何か面白いことができないかということで、工夫してつくったんですね。目印ではなかったと思うんです。

○委員：今の件で、博物館らしく、何かの生き物の足跡とか、子供たちだったら、一緒に踏みながら来るだけでも、楽しく来れるかもしれないなと思いました。

○委員：すばらしい。

○委員：やっぱり駐車場も委員がおっしゃっていたみたいに、裏口の森を知らないと、表からみんな回ろうとしたりしてしまうので、それも何々コース、何々コースみたいなので、行きと帰りは違うようにするとか、駐車場からも何か遠足みたいに楽しんでもらえるようになればいいなと思います。

○会長：ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問等。

○委員：すごく全体的なぼやとした質問なんですけれども、先ほど館長がおっしゃった限られた予算と人員の中で、当然、研究がイの一番だと思います。研究をやります、そして展示ですね。博物館を維持していくということがある中で、多分余力があまり難しいのかなと思いながら、その中でもやっぱり事業目標3ですね。こういう事業であったりとか、他団体との連携、ネットワークとか、または事業目標5のインターネットのユーチューブを使ってとか、SNSで発信してというところが、これからどんどん広げてほしいと思いつつ、ここが一番しわ寄せのクッション材になって、縮んだり、縮んだり、縮んだりというところになるのかなとちょっと思いまして、コロナの間は来館できなかったから、ユーチューブに協力できたけれども、じゃ、開館もし、研究も進み、さらにはしかけに力を入れるとか、ユーチューブに力を入れて発信するというと、すごく大変なことだろうなと想像するわけです。ぼやとした言い方で申し訳ないんですが、その中でどこを目指されるのか、この矢印の先ほどの厳しさですね。私たちがこれから外部で見させていただくときに、1番とかは研究の部分なので、あまりよく分からないんで

すけれども、そういう弾力的に運用するところの注力具合というか、例えばほかのことをやめて、こちらをやるとか、工夫でできるとか、ちょっとその辺のニュアンスだけでもお知らせいただければと思いました。

○館長：私どもが考えているのは、やっぱりバランスだと思うんですね。何か研究だけやったら終わりというわけではありませんし、展示とかで発信だけしたらいいというわけでもないで、やはり基本はバランスです。そのバランスの根幹になるのは、研究と資料、これがないと、やはり新しいものがつくれませんので、その時間とお金は確保したいと思うんですけど、予算はやはり県全体で減っておりますし、研究費も減っておりますので、外部資金を得る中で、研究専念日というのをつくっておりますが、これも今やり始めたところですが、これはちょっと崩れかけているところもあると思うんですけど、これをできる限り維持していくということですね。そういうことをしながら、一方で皆さん方にもお手伝いいただきながら、外の方と組んでいろいろ発信したり、交流したりすることができればいいなと思っております、この限られた人材とお金だけでは、やはりやれることは限られていますので、そういう意味でいろんな方々とのネットワークが大切だというふうに考えております。

○委員：ありがとうございます。そのネットワークを維持するのが、すごく大変というのが、「ミーオ（元気っずミーオ）」のほうでもよく分かっていますので、ご無理のない範囲で、なおかつどうやったら広がっていくかというのを一緒に考えていきたいと思っておりますし、特に6番の安定してこれから継続してというところは、努力というよりは、検討のということになってくるかと思っておりますので、どうぞ下矢印をいっぱいつけてくださればいいかなと思いました。以上です。

○委員：すみません、冒頭の破損事故の報告が聞けていなかったんですが、本当に人命に関わるような事故というか、破損がたまたまお客さんがいないところで起きたのが幸いだったかもしれませんが、これがいろんなことが考えられるということも考えていらっしゃるし、それ相当のまず調査かなというご準備も分かりました。

昨日でしたか、国立博物館の電気代高騰による報告を、たしかNHKでやっていたと思ったので、これもある意味で、災害的な電気代高騰というのが、多分かなりの影響が出ていらっしゃるんだろうなと思っております、短期的な対応でいくのか、これは本当に長期戦も含めて、やっぱり一番肝心である資料とか、その辺も国立博物館ですら、ああいう実態が起きているということは、恐らく琵琶湖博物館さんも相当厳しい状況があるだろうなというのは、あの番組を見ながら、ちょっと思っていました。

ここでも何か報告できることがあれば、ひとつ報告いただきたい。その現状の厳しさと、実際電気代高騰によって、どんなことが起きて、今後どんなことが考えられるのか。あと、対策としても、この老朽化の問題もそうですけれども、幸い人命に関わる場所までいかなかったけれども、今後のことを考えたら、前も私、お伝えしたかもしれ

ませんけれども、やっぱりもうちょっと皆さん方のご努力プラス、県の中でもしっかりお金が動かせるような人たちに、この現状を知ってもらおうべく、そういうところで早め早めの対策ができるにこしたことはないわけでしょうから、その辺も含めて何か、建物なり資料を守っていくという意味で、現時点でお考えとか、こんな思いもあるということをちょっとお聞かせいただけたらと思います。

○梶副館長：博物館ができて27年たったということで、28年目を迎えているところなんですけれども、やっぱり当初、すごい思いで造られて、200何十億とかかった施設ですし、維持費はそれなりにかかるものなんですけれども、やっぱり年々県庁のほうから、この維持管理費に充てられている分が減ってきているのが現状です。

ほかの博物館に比べて、この支出に占める入館料の割合は、非常にうちは高いということで、お客さんからのお金で維持しているというような部分も出てきていますので、県に対していろいろなものを伝えていって、予算要求とかをこれからしていきたいというように思っているんですけれども、水槽破損もそうなんですけれども、27年間、お客さんに見ていただいているところはリニューアルはしましたので、きれいになっているんですけれども、内部は相当傷んできています。ここにしかないような貴重な収蔵品もございまして、水族でもここにしかないような希少種がいます。これがもし停電してしまったら、酸素が届かないとか、温度調整ができないということであれば、死んでしまう可能性もありますので、非常に危機感を持っていますし、収蔵品に関して言いますと、実際、恥ずかしいことなんですけれども、そこらじゅうで雨漏りしていますので、カビとか収蔵品に影響すると、取り返しのつかないことになりますので、その辺は我々も一生懸命県のほうに伝えていって、予算を確保したいと思っておりますし、民間企業との連携も大きな課題としてありますので、伊藤忠の話が出ていますけれども、そことも一生懸命こちらの誠意も伝えて、継続的にやっていきたいというように思っておりますし、それ以外のところにも声をかけて、連携して、寄附もそうですけれども、資材をいただいたり、貴重なお知恵もいただいて続けていきたいというように考えているところでございます。

我々の発信力というのにも限りがありますけれども、ユーチューブチャンネルですとか、SNSでいろんな発信を今やっているところでございまして、時々、今の言葉で言う「バズる」というか、たくさんの「いいね！」をいただいているのも事実ですし、コロナを機に今までの取組と違う見せ方をして、変えてきているところでもありますし、ネットで見て、これで満足されるだけではなく、ネットで見たら、さらに現場に行きたくなるというような見せ方、伝え方にさらに取り組んでいく必要があると思っておりますし、水族も今、破損してしまいましたけれども、これを機に見せ方を改めて考えて、A展示、B展示、C展示とどうつなげていって見てもらうのかというのは、これからの課題かと思っております。

当然、限られた予算ですので、優先順位とかはメリハリをつけて取り組んでいくべきとは思いますが、これは知恵を集めて、これから進めていきたいと思っておりますので、協議会の委員の皆様のご意見もまた参考にさせていただいて、前を向いて取組を進めていきたいというように考えております。

○事務局（総務課長）：1点だけ。先ほど言っていた電気代の高騰ですけれども、これは去年からですけれども、県庁全体でやはり大きな問題でして、別途措置して、電気代だけは別枠で余分に今年度とかも措置はさせていただいております。来年の話まではまだ来ていないんですけれども、それは一応きちんと措置させていただいているところですので、ご報告いたします。

○会長：ありがとうございます。

事業目標5・6に関して、ほかにご意見、ご質問はよろしいでしょうか。

それでは、時間のほうもありますので、本日の意見交換を受けて、外部評価のまとめ方をどうしていくかということを議論していきたいと思っております。

お手元の資料6からは、外部評価の記入票となります。昨年も皆さん、同様の記入票にご記入いただいたので、今説明を受けました内部評価のご項目をもう一度見直していただいて、あるいは今日の意見交換の内容も踏まえて、ご記入いただきたいと思っております。

まず、タイムスケジュール的なところを伺っておきたいと思っておりますが、いつぐらいまで、夏休みの宿題のような感じになるでしょうか。今日の議事録のような記録もいただいて、それを見ながら記入して、いつ頃に提出する形になりますか。

○事務局（企画・広報営業課長）：ありがとうございます。

今、皆さんにお配りしている外部評価記入票ですけれども、また後ほどファイルをお送りさせていただきますので、そちらのほう記入いただいておりますか、この用紙に記入いただいて、お送りいただいても構わないです。

その締切りなんですけれども、できれば8月中にいただきたいと思っております。どうしても8月中は無理だという方は、これからお送りするメールに、ちょっと無理ですというお返事をいただければ、いつ頃だったら大丈夫ですかというようなことをお聞きしますので、またよろしく願いいたします。

○委員：「びわこのちからチャンネル」なんですけれども、大ファンで、今年も新たにどんどん増えてきて、最近はずいぶんフィールドから、ミナミヌマエビにしても、ハッタミミズにしても、とても楽しく見せていただいて、また江戸時代のふなずしですか、そういったものも本当に新たな、またこれまでと違った形で、例えばミナミヌマエビだったら、お笑い芸人が登場してきたりとか、非常に工夫をこらしておられるなど、すごく面白く、琵琶湖博物館の学芸員の先生って、こんなに楽しいんだということも、また観察することもこんなに楽しいんだということで、夏休み、子どもたちが見たときに、とっても身近に感じてくれるんじゃないかなと思えました。

ちょっと一つの提案なんですけれども、必ず最後に、展示室と結びついているというふうになっていまして、展示室のここに行ったら見られますよということがあって、その展示室に「びわこのちからチャンネル」を、例えばミナミヌマエビだったら、C展示室に設置するとか、そして今度はフィールドに行ってみようとか、そういう双方向のことができればいいかなと、「びわこのちからチャンネル」を見て思いました。

○会長：今のご意見にご回答をお願いします。

○事務局（企画・広報営業課長）：ありがとうございます。

今、ユーチューブチャンネルにたくさんの方が登録していただいています、委員も多分、その登録者の一人だと思えますけれども、今は年間6件ほど、外部委託で編集をいただいていますので、多分、その編集のおかげで、大変面白くなっているのかなというふうに思うんですけれども、それ以外にもこちらで撮影したものをアップしたり、例えば、水族の生き物の紹介であったりというのはこちらでやっていますので、なるべくいろんな視点からというような形で、動画でも博物館の情報発信というのをやっています。展示とのコラボというか、展示での紹介というのは、予算のこととか、あとスペースのこととかもありますので、今後の検討にさせていただけるとありがたいです。どうもありがとうございました。

○会長：ありがとうございます。

「びわこのちからチャンネル」については、事業目標の中では5に関わってきますね。その辺りでまたご意見等いただければと思います。この中で双方向という点の充実ができていないという、今ご指摘いただいた点に関連しての記載もありますので、外部評価でより詳細なご意見をいただければと思います。

それでは、先ほど8月末までにこの1～6の外部評価の記入票に記入して、提出の方向でという宿題をいただいたわけですが、皆様からお送りいただいた記入票を集約するような枠組みも必要かなというふうに考えておりました、例えばこの内部評価ですと、1～6、それぞれを読んでいこうと思うと結構大変なんです、事業目標1～6に先立って、冒頭に館長による評価ということで、内部評価の総評ということで、A4一枚に全体の内容をぐっと凝縮してまとめてくださっていますけれども、これに倣うような形で、皆様のご意見を、私とご経験の豊富な布谷副会長のご助力もいただきながら、総評という形で、館長のA4一枚の内部評価の総評と並び立つような形で、外部評価の総評という形でまとめさせていただくという方向で、皆さんからいただいた評価票の一つの取りまとめをしたいと思いますが、その点につきまして、ご意見や、こういうふうにしてほしいというご要望などありましたら、お伺いしたいと思います。

最終的なまとめの形ということですので、8月末までに皆さんに記入票をお送りいただいて、その後、私と布谷副会長のほうで集約して総評を作成するというふうにして、外部評価として取りまとめていきたいと思っています。よろしいでしょうか。

それでは、まだご意見もあろうかと思いますが、予定を過ぎましたので、この議題については以上で終わらせていただきます。

(2) その他

○会長：もう一つ、議題の(2)として、その他ということをご準備しています。これまでの議題以外に、今、「びわこのちからチャンネル」についてもご意見をいただきましたし、その他、博物館に関するご質問、ご意見等ございましたら、一旦この事業目標の枠組みから離れたところでも、広い観点からご意見、ご質問をいただければと思います。いかがでしょうか。

○委員：琵琶湖博物館にある「はしかけ」というのは、本当に琵琶湖博物館にとっては宝物だと最近思っています。最初、当時、2000年だったかと思うんですけども、「はしかけ」ができて、私は、田んぼの生きもの調査グループに入らせていただいて、そのときには本当に僅かな人数だったのが、今はどんどん増えていって、グループもどんどん増えていって、田んぼいきものときも実は、アジアカブトエビというのが私の家の近くの田んぼにおりまして、それを最初に発見したとき、楠岡さんやグライガーさんに持って行って、それがアジアカブトエビだということが分かって、すごい私も大興奮して、うれしかったんですけども、それが23年たった今、その大津市の南部ですけども、定点観測地点になっていて、たまたまコロナの前に私が田んぼの近くにいたときに、琵琶湖博物館の旗で、田んぼの生きもの調査グループの人たちが一生懸命調査されているんですね。

それから「はしかけ」のニューズレターも読ませていただいていますけれども、どんどんと分布範囲も定点範囲も広く、そして研究が深まって、おまけに博物館の屋上にはミニ田んぼまでつくって、カブトエビの飼育まで始めたという、そういう広がりや深まりが、田んぼの生きものだけではなくて、「森人(もりひと)」にしる、いろんなグループがありますけれども、随分と深まりを見せている、広がりを見せている。それがまた「びわ博フェス」にもつながっていく。そういうふうには、どんどんどんどん成長していったらというものが、私は見せていただいていると思っています。

インターネットでニューズレターを読ませていただいたりすることが、とっても楽しみです。フィールドレポートのほうも、随分と最初の頃と違って、研究をまとめられた方が、まるで学芸員の先生みたいな、もちろん学芸員の先生方の後ろ盾があるかと思えますけれども、はしかけやフィールドレポーターの皆さんが研究するということがこういうことなんだな。一般の人たちもこんなふうには、どんどんと変化していって、研究が楽しいだろうなということを感じさせていただきました。ありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。

○亀田副館長：1つ、いいですか。

どうもありがとうございます。ちょうど、田んぼ生きもの研究会のお話が出たんですけども、実は先日企業の田んぼの生き物の調査について、ご相談があったときも、カブトエビの話ということで、はしかけの方でカブトエビに詳しい方が今こんなふうに県内で分布していて、アジアカブトエビだけではなく、外来種にはなるんですけども、こんなカブトエビがこの辺にいて、実際、田んぼでこんなのがあってという標本を見せていただいたりということがありました。やはり長年、「はしかけ」の調査や研究をずっとしてくださっている方々は、本当に学芸員並みか、それ以上にすごく研究成果をあげられていたり、いろいろ経験を積んでおられている方が増えています。

先ほど館長も申しましたとおり、学芸員だけでは全てに対応し切れないところを、「はしかけ」の方などが本当に活発に活動していただいて、一緒に活動していったらというのが、すごく博物館にとってもありがたいことですし、琵琶湖地域のいろんなことを調べたり、活動したりという、そういった広がりやつながりができているということもあります。ぜひまた皆さん、博物館を使っていただきながら、どんどんそういう活動を博物館の外に広げていただけるといいなと思っています。

企業の方も、寄附をいただくという形の支援もありますけれども、最近ではSDGsなどの活動で博物館と協働したいというところも増えています。岡田委員のおられるコクヨさんなどは昔から随分連携させていただいているんですけども、それ以外にも今お話が大分増えてきていますので、いろんな方々、団体の方々と一緒に博物館活動を進めていけるといいなと思っています。どうもありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。ほか、ご意見等よろしいでしょうか。

○委員：本当にどうでもいい話なんですけれども、今度、花火大会やるじゃないですか。イナズマロックも今年またありますよね。芝生って傷まないんですか。ごめんなさい、本当にどうでもいい話です。でも、経費がかかるじゃないですか。そんなに大したことはない。

○事務局（企画・広報営業課長）：多分、芝生は傷むと思うんですけども、芝生広場は琵琶湖博物館の管理下ではないんです。あれは水資源機構が管理している場所ですので、あちらのお金になると思います。

○委員：分かりました。

○会長：ありがとうございます。

まだまだご意見等あるかと思いますが、この後、企画展もご案内いただけるようなので、そろそろ今日の会議は以上で終了いたしたいと思います。

ただ、ほかあるご意見は、外部評価のほうにぜひ反映いただいて、活発なご意見をいただければと思います。本日は、長時間にわたり貴重なご意見をありがとうございました。それでは、事務局に進行をお返しいたします。

4 閉 会

○司会：会長並びに委員の皆様方につきましては、長時間にわたり、大変熱心にご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。本日いただきましたご意見等は、今、出席している我々だけではなくて、館の職員全員に周知しまして、意識して、今後とも取組を進めてまいりたいと考えております。

それでは、ちょっと時間を超過しておりますけれども、これをもちまして、滋賀県立琵琶湖博物館協議会令和5年度第1回会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。